

●この説明書は、必ず取付けされる方にお渡してください。

■取付けされる方へのお願い

●本説明書で使われているマークには、以下のような意味があります。

▲注意 …取付けを誤った場合に、使用者などが中程度の傷害・軽傷を負う危険又は物的損害の発生が想定されます。冒頭にまとめて記載していますので必ずお読みください。

▲注意

●本体と上レールへのかかりを 5mm 以上確保してください。かかりが少ない場合は、建付け調整を必ず行ってください。本体が枠から外れてケガをする原因になります。

■取付け上のお願い

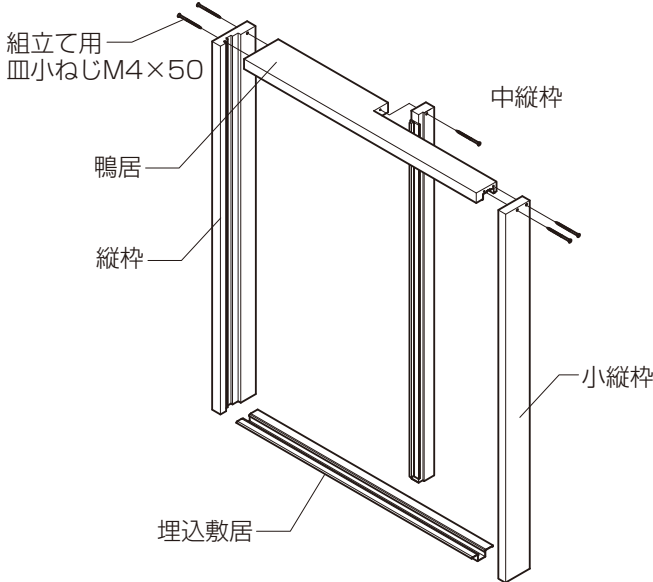
- 納品時に各部材・部品を検品してください。万一製品に不具合があった場合は、必ず取付け前にお買い求め店までご連絡ください。（施工後の色調・不具合・キズなどによる交換はできません。）
- 運搬・加工の際は、キズ付かないように取扱ってください。また、水・直射日光の当たる場所に、開梱状態で置かないでください。ソリ・ねじれの原因になります。
- 造作材・建具枠をコンクリートやモルタル(床面)に直付けしないでください。やむを得ず直付けする場合は、造作材・建具枠木口と床面の間に、必ず防水処理をしてください。
- 造作材・建具枠と柱・間柱・まぐさとの間には必ずすき間をつくり、かい木を入れてください。
- 造作材・建具枠の下地材および、かい木には、合板などの乾燥材(含水率20%以下)を使用し、湿潤材は使用しないでください。
- 造作材・建具枠を取付ける時は、必ず接着剤(現場手配)を併用してください。かい木を使用する場合は、かい木の両面に接着剤(現場手配)を塗布してください。
- 現場で使う接着剤は、「F☆☆☆☆」またはノンホルムタイプを使用してください。
- 壁内の通気が悪く、内部結露が発生するおそれがある場合は、防水処理をしてから取付けてください。
- 梁またはまぐさが軽量鉄骨の場合は、ねじ保持力が弱いため直接固定しないでください。必ず枠と軽量鉄骨の間に木枠を入れて取付けてください。また、枠の垂下がり・ゆがみ防止のため、壁の仕上げ材に合板を使用してください。
- 枠は取付け前に開梱した状態で現場に置かないようにしてください。現場の粉塵がレールや戸車に付着し、作動不良の原因になります。
- 本製品の組立て・取付け時には、同梱の指定ねじを使用してください。他のねじを使用すると、部品・部材の脱落や、枠の垂下がり・ゆがみなどの原因となります。（本説明書内で「現場手配」と記されている場合は除きます。）
- 本製品のねじ締付け時には、クラッチ付きドライバーを使用してください。締付けトルクが強すぎると、ねじが空転したり、ねじの頭がとんだり、つぶれたりする場合があります。
- 組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。ただし、たたき込まないようにしてください。保持力低下の原因になります。
- 各部材のガイド穴にゴミが入らないようにしてください。
- 枠の組立て後、揺らす・ねじれ・引っ張りなど無理な力を加えないでください。破損する原因になります。
- 枠取付けの際は、水準器・下げ振りなどで水平・垂直を確認してください。
- 枠はたおれ、傾き、タイコ、ツツミ、ねじれがないように取付けてください。片引き枠の場合は、中縦枠の施工にご注意ください。吊込み後、本体とのすき間・干渉の原因となります。
- 片引きの建具引込み部の半壁は、枠を開口部に取付けてから取付けてください。
- 鴨居取付けねじの締めすぎにご注意ください。上レールを変形させると本体の動きが悪くなる場合があります。本体吊込み時に動きが悪い場合は、ねじをゆるめてください。
- 本体は落下させたり、立てかける時に衝撃を与えないでください。本体部品が損傷し、開閉に支障をきたす原因になります。
- 製品取付けの際の建具養生時に表面シートにテープ(ガムテープ、養生テープ、マスキングテープなど)を直貼りしないでください。テープをはがす際、表面シートを傷めたり、テープの粘着剤が表面シートに付着したまま残ることがあります。

■本体保管上のお願い

- 本体のソリ・ねじれ防止のため、下記場所に置いたり、保管しないでください。
 - ・直射日光の当たる場所
 - ・昼夜などで温度差の激しい場
 - ・湿気の多い場所
 - 本体を長期間保管する場合は、寝かせた状態で保管してください。立て置きでの保管はソリ・ねじれなどの原因になります。
- ※建築工事中は、本体を養生・保全のため取外しておき、取付け完了後に吊込むことをおすすめします。

■部品・部材の名称

●片引き枠



■部品・部材の明細

		片引き
本体	本体	1梱包×1
	鴨居	1
枠	上レール	1
	縦枠	1
	中縦枠	1
	小縦枠	1
	幅木	1
	戸当り	2
	枠用部品セット	1
埋込敷居 ※別売品		敷居: 1 レール: 1

■部品セット

引手セット	
引手	2個

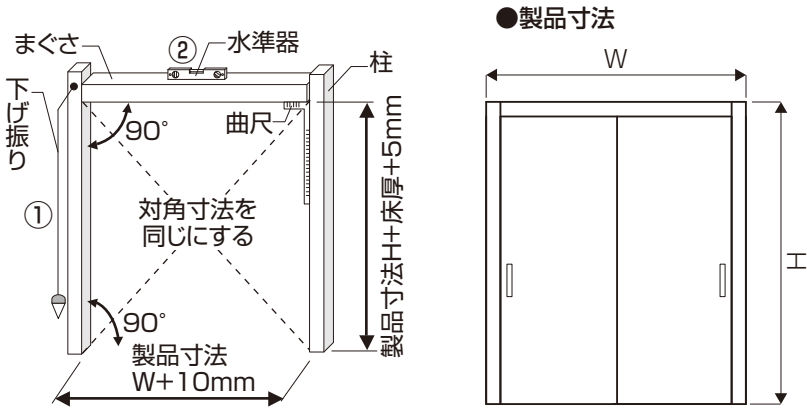
プッシュ錠セット	
プッシュ錠本体	1個
錠座カバー	1個

枠用部品セット	片引き (NC156)
組立て用皿小ねじM4×50	4本
鴨居取付け用トラスタッピンねじφ4×50	5本
縦枠取付け用DNビス(皿木ねじ)φ3.8×50	6本

埋込敷居用部品セット	片引き
敷居取付け用なベタタッピンねじφ4×30	5本
中縦枠下部スペーサー	1個

■開口部の作り方

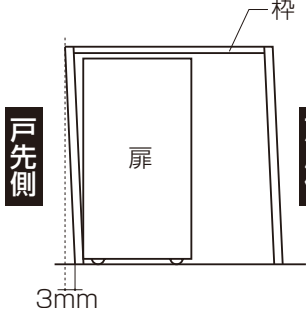
- ①下げ振りを使って、柱が垂直になるように取付けてください。
②水準器・曲尺を使って、まぐさが柱と垂直で、水平になるように取付けてください。



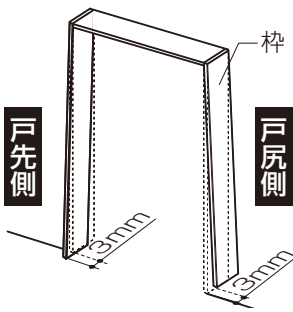
■取付け精度の許容範囲

※横方向のたおれ・奥行き方向のねじれ・枠のタイコ・ツツミが3mmを超える場合は、3mm以内になるように取付けを修正してください。(引戸が吊込めなくなる原因となります。)

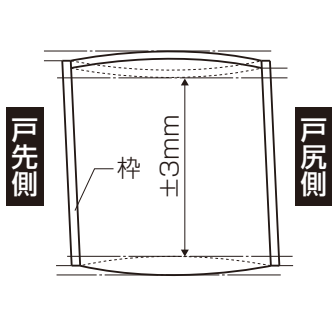
●横方向のたおれ



●奥行き方向のねじれ



●枠のタイコ・ツツミ



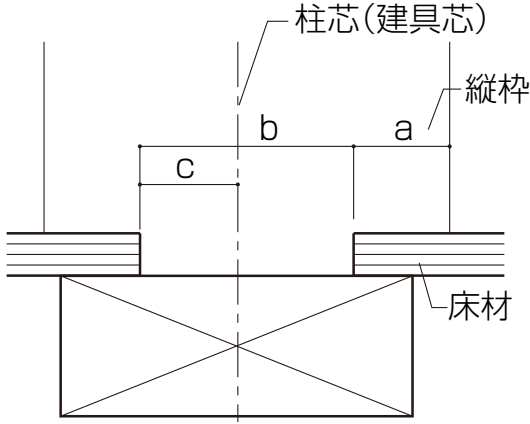
■床の張り方

〔埋込敷居の場合〕

●片引き

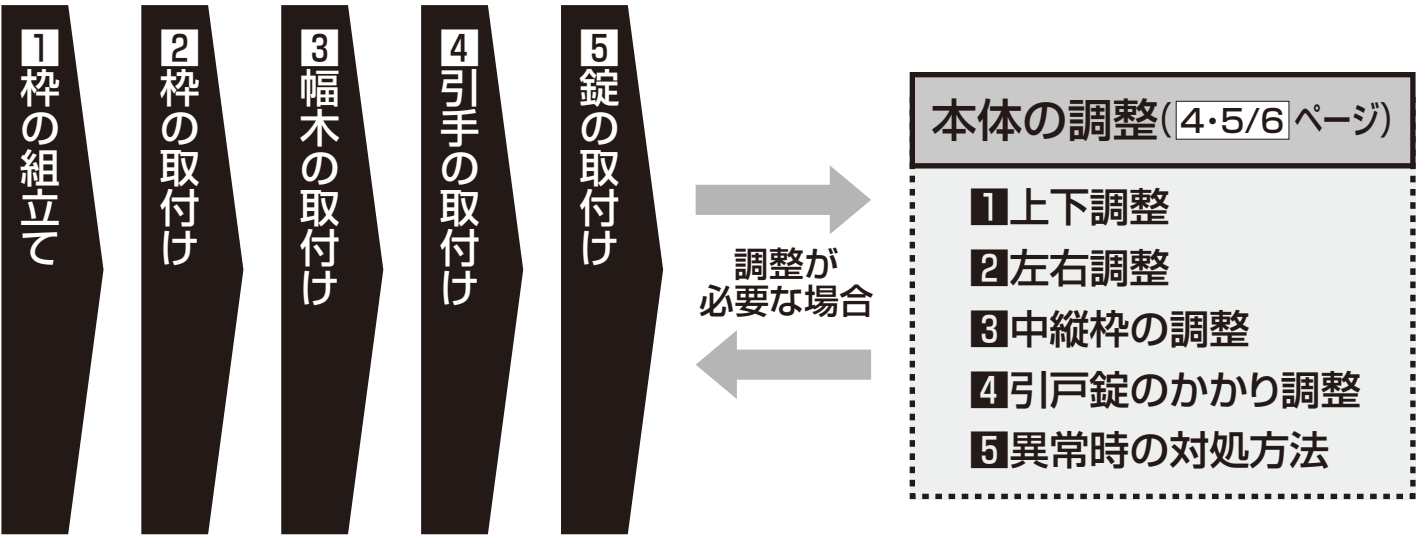
※床材間に敷居が入りますので、柱芯(建具芯)より引込み側にb寸法あけて、床材を張ってください。柱芯と建具芯が合っていない場合は、縦枠端部よりa寸法内側に入った所にb寸法あけて、床材を張ってください。

※床材の開口寸法(b寸法)が大きすぎたり狭すぎると、床のすき間が見えたり敷居が入りにくい原因となります。



		(単位:mm)		
		埋込敷居		
		a	b	c
片引き	NC156	48	30	0

■取付け順序

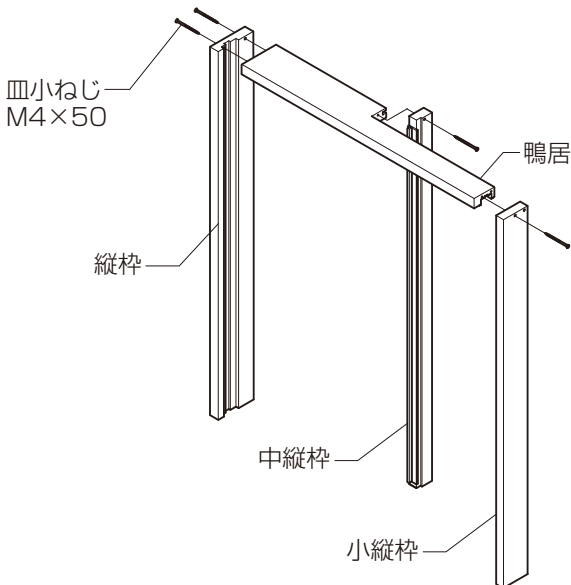


1 枠の組立て

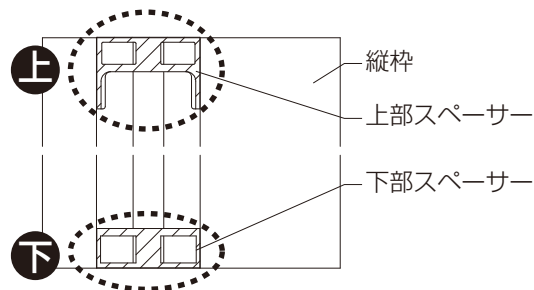
〔埋込敷居を使用する場合〕

●下図のように、各部材を組合わせ、同梱のねじ（皿小ねじM4×50）で固定します。

●片引き枠

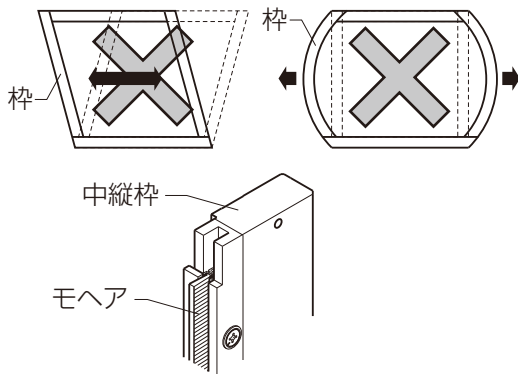


縦枠には上下があります。
大きなスペーサーが付いている方が上側です。
組み合わせる向きにご注意ください。
※3方枠の時は、下部スペーサーは付いていません。
※図は片引きの場合を示します。



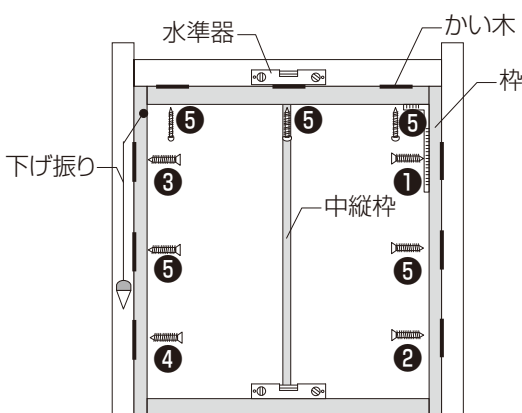
・枠組立て上のお願ひ

- ※ガイド穴にゴミなどが入らないようにしてください。
- ※組立てねじは、縦枠とねじ頭が面一になるまで締め込んでください。ただし、たたき込まないようにしてください。保持力低下などの原因になります。
- ※枠組立て後、揺らす・引っ張るなどの無理な力を加えないでください。破損の原因になります。
- ※中縦枠モヘアが上部切欠き部より出ている場合は戻してから組立ててください。モヘア調整不良の原因となります。



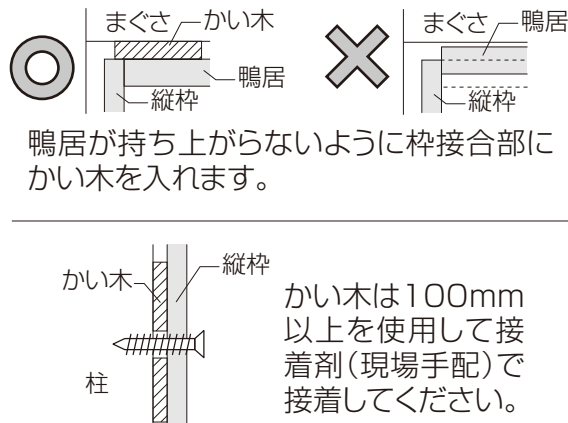
2 枠の取付け

開口部と、縦枠・（中縦枠・小縦枠）・鴨居との間にかい木を入れて取付けます。



※中縦枠が曲がらないように注意してください。

- ①枠を開口部にはめ込んで、下枠・鴨居の水平を確認してから、縦枠の①を仮固定してください。
 - ②下げ振りを使って垂直・たおれがないことを確認してから、縦枠の②を仮固定してください。
 - ③水準器で下枠・鴨居の水平を確認してから縦枠の③を仮固定してください。
 - ④下げ振りを使って垂直・たおれがないことを確認してから、縦枠の④を仮固定してください。
 - ⑤枠の水平・垂直を再度確認して、上下、左右のすき間をかい木で調整後、残りのねじで本固定してください。
- ※枠に水糸を張る等して枠が曲がっていないことを必ず確認してください。

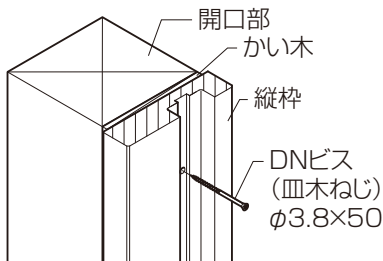


■鴨居

※鴨居は同梱のねじ（トラスタッピンねじφ4×50）で固定してください。

■縦枠・小縦枠

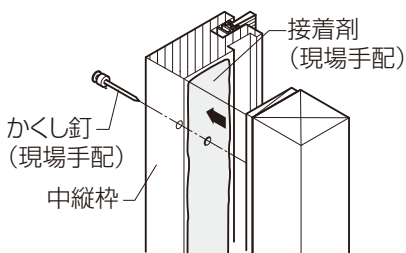
※同梱のねじ（DNビス（皿木ねじ）φ3.8×50）で固定してください。



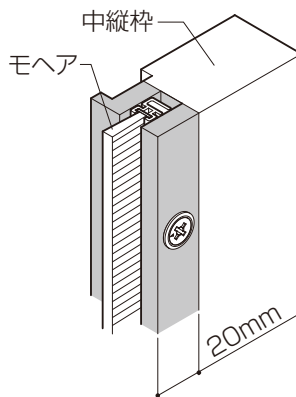
■中縦枠の固定

※裏面に接着剤（現場手配）を塗布し、かくし釘（現場手配）で固定します。

●NC156の場合



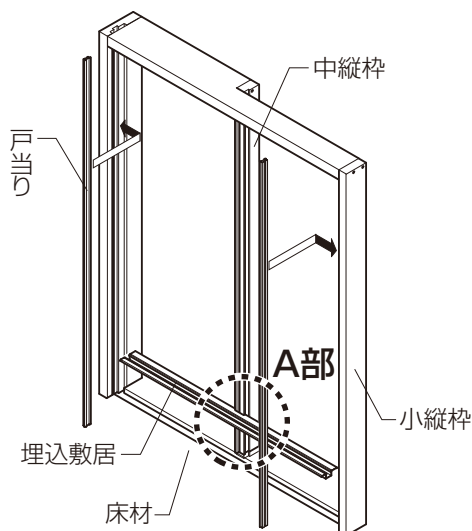
中縦枠を固定する際、釘やタッカーをモヘア側から表裏20mmの斜線部には打たないでください。中縦枠にはモヘアを調整する機能が付いているため、部品が破損し調整できなくなります。



〔埋込敷居の取付け〕

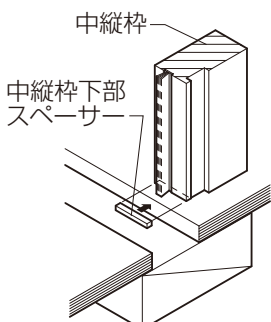
●片引き枠

- ①埋込敷居に同梱の中縦枠下部スペーサーを、リブ面を上向きにして中縦枠のすき間に入れてください。
 - ②同梱のねじ（なべタッピンねじφ4×30）で固定します。
 - ③戸当りを現場の寸法に合わせて切断します。
 - ④戸当りに接着剤（現場手配）を付けて溝をふさぎます。
- ※戸当りは必ず、敷居取付け後に取付けてください。

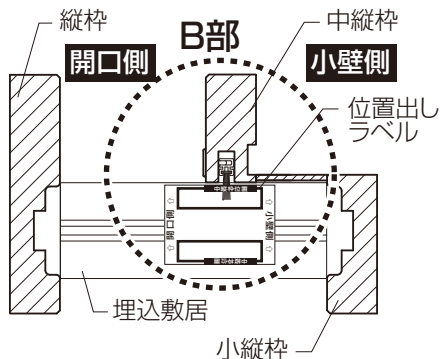


■A部詳細

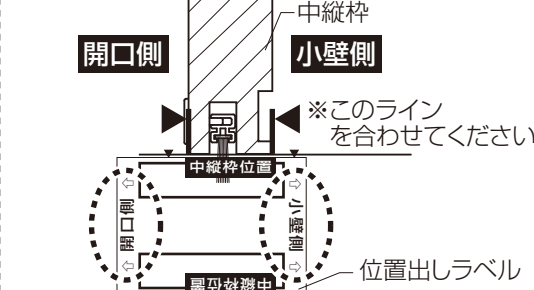
●片引きの場合、中縦枠の位置出しは、埋込敷居の位置出しラベルに合わせて取付けてください。



※片引きの埋込敷居は左右勝手兼用ですが、中縦枠位置出しのため向きがあります。必ずラベルの「小壁側」「開口側」を確認してください。

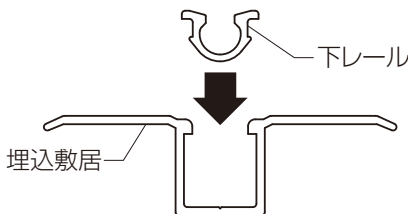


■B部詳細



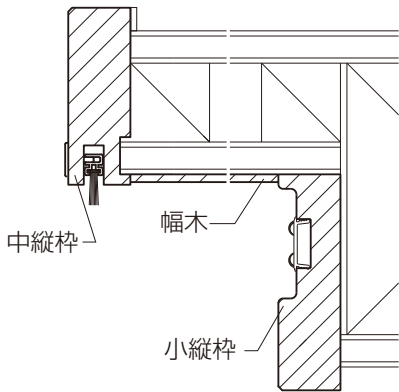
■下レールの取付け

●敷居の溝にプラスチックハンマーなどでたたき込んで固定します。



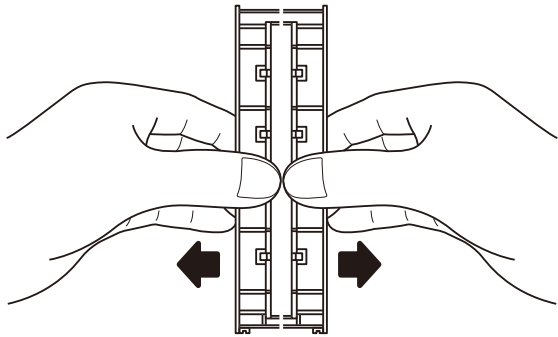
3幅木の取付け

※片引き枠には、小壁のボードと埋込敷居を見切るために幅木が同梱されています。必ずご使用ください。幅木部材の裏面にまんべんなく接着剤（現地手配）を塗布し、専用のかくし釘で固定します。かくし釘のピッチは、200～300mmです。

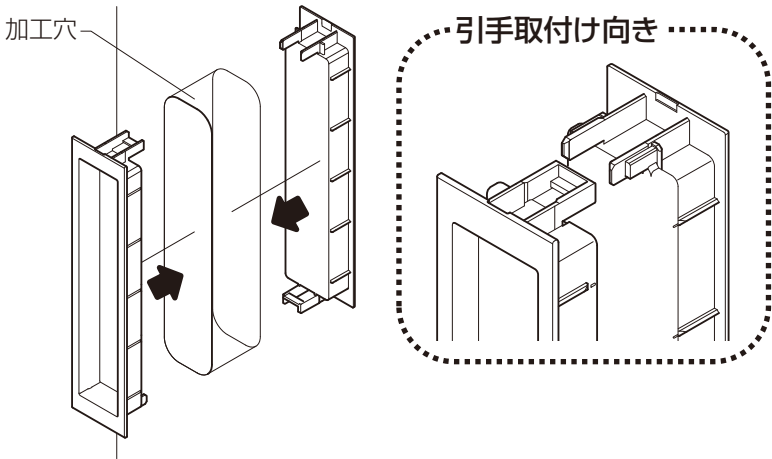


4引手の取付け

①引手は仮組み状態になっています。平行に引き抜いてください。

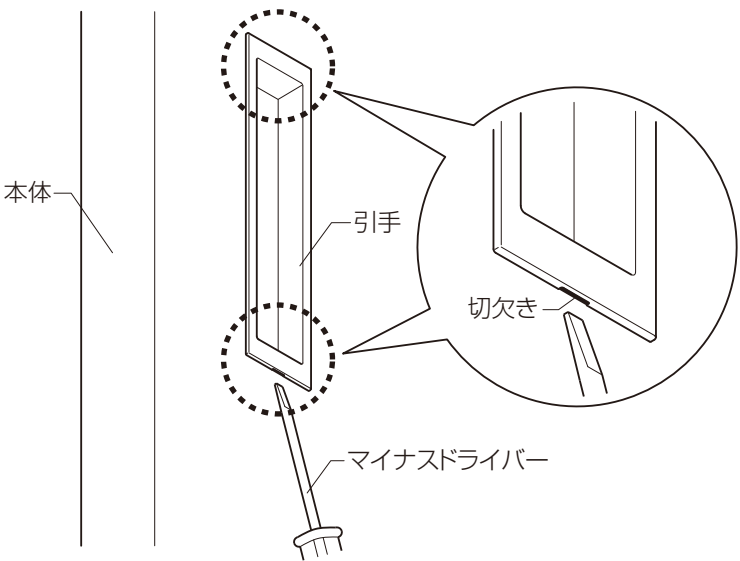


②引手本体の加工穴に引手を取付けます。表裏の引手が上下互い違いになる向きにし、加工穴に押し込み固定してください。



●引手の取外し

引手上下にある切欠きに本体をキズ付けないようにマイナスドライバーを差込み、少しずつ引手を浮かせて外します。



お願い

※上下から少しずつ外してください。片側から一度に外そうとすると引手が破損するおそれがあります。

本体

引手

浮かせる

マイナスドライバー

浮かせる

5錠の取付け

※錠の取付けについては、錠セットに同梱の取付け説明書をご覧ください。

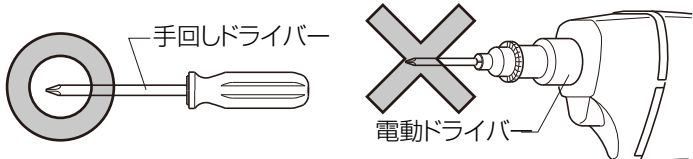
■本体の調整

1上下調整(調整幅+4mm、-2mm)

※上レールに5mm以上かかるよう調整してください。

- ①本体両下端の上下調整ねじを右に回すと本体が上がり、左に回すと本体が下がります。
- ②調整後、本体の上レールへのかかりが5mm以上あるか、確認してください。

※本体の調整は必ず、手回しドライバーを使用してください。
※電動ドライバーは、使用しないでください。ねじ頭が壊れるおそれがあります。



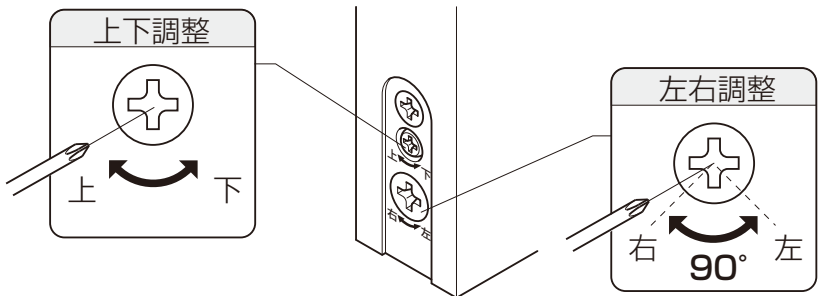
⚠注意

●本体と上レールへのかかりを5mm以上確保してください。かかりが少ない場合は、本ページの本体の調整を必ず行ってください。本体が枠から外れてケガをする原因になります。

2左右調整(調整幅±2mm)

本体両下端の左右調整ねじを左に回すと本体が左に動き、右に回すと右に動きます。

※左右調整ねじの可動範囲は90°です。これを超えて無理に回さないでください。

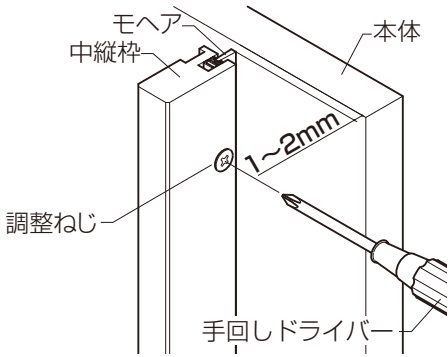


3中縦枠の調整(出荷時5mm、最大11mm)

※本体とモヘアのすき間が1～2mm程度になるように調整してください。

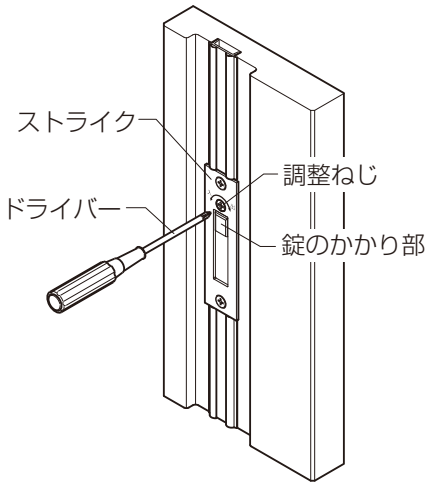
出荷時には輸送時のモヘアの折れ曲がりを防ぐためモヘアを最も引っ込めた状態で出荷しています。

- ①中縦枠のモヘア調整ねじを手回しドライバーで回してモヘアの出寸法を調整してください。
- ②調整後、本体とモヘアの先端が1～2mmのすき間が確保されているか確認してください。

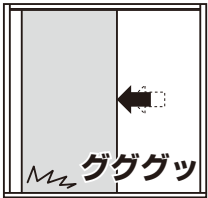
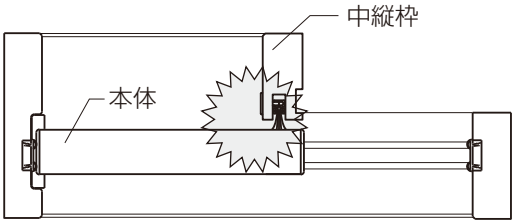
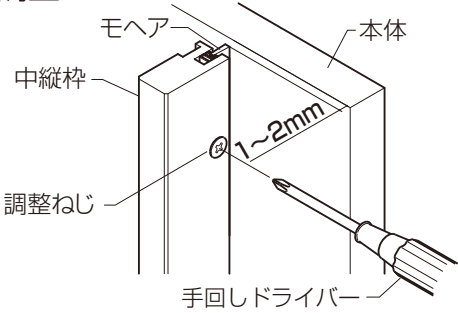
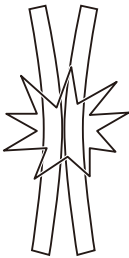
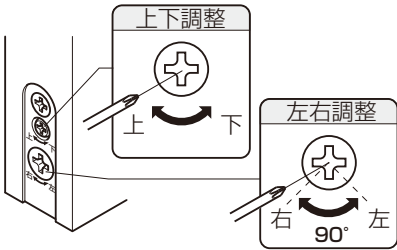
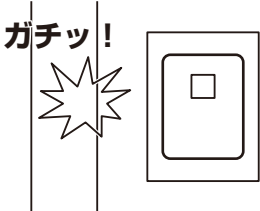
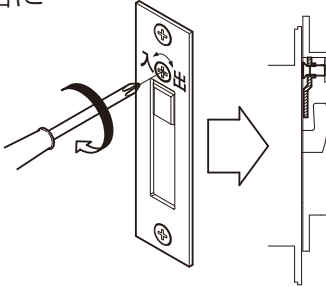


4引戸錠のかかり調整

ストライクの調整ねじを右に回すと錠のかかり部が出て、左に回すと錠のかかり部が奥に入ります。



5異常時の対処方法

現 象	チェックポイント	対処方法
開閉が重い 	●本体とモヘアが接触している。 	モヘア調整ねじを調整してください。 
本体同士が当たる 	●戸車調整が不適當	戸車の左右調整をしてください。 ※左右調整ねじの可動範囲は90°です。これを超えて無理に回さないでください。 
鍵がかからない 	●ストライク調整が不適當	ストライク調整ねじを右に回してください。 
鍵が甘い (縦枠と本体戸先にすき間が空く)	●ストライク調整が不適當	ストライク調整ねじを左に回してください。 